

序

小杉 泰

中東地域が大きな重要性を持っていることは、我が国にとっても国際社会全体にとっても自明なことであり、この地域が安定することは、世界経済へのエネルギー資源の安定供給という観点からだけではなく、国際的な秩序の安定化にとってもきわめて緊要な課題となっている。

地域の安定に寄与する要因の一つに民主化があげられる。地域の諸国において民意を反映した政治がおこなわれるならば、そうでない場合よりも国内政治が安定的に運営されるであろう、という予測は決して根拠のないものではない。

しかし、中東に関しては、民主化の実態がこれまで十分に知られてこなかったというのが実情であろう。この面での情報と分析の欠如なり空白は、民主化による地域の安定という命題を抜きにしても、当該地域の政治を分析し、さらに政策を立案する上で、大きな障害をもたらすものである。本研究プロジェクトは、そのような空白を埋め、中東諸国の政治をより構造的に分析して、的確な理解を深めることを目的としておこなわれた。

実際、冷戦構造崩壊以降、多くの中東諸国で民主化傾向が見られるようになっている。一般には、「全体として不十分である」との消極的評価も存在するが、憲法改正、複数政党制の導入、普通選挙の実施など、民主化、自由化に関わる政治制度には顕著な変化が見られる。そして、その政治的变化は中東全体の社会の質的变化をももたらしている。このことを背景に、近年では日本の新聞紙上において、中東のメジャーな国のみならずマイナーな国において実施される総選挙や地方選挙も報道されるようになった。当然、国により報じられる紙面の大きさには幅があるが、現在は中東の国々で行なわれるほとんどすべての選挙が、日本で報道されている。

しかし、報道されている情報には、マスメディアの限界性に由来する3つの大きな問題が看取される。第一に、選挙の大まかな結果しか報じられず、議会内の会派や政党別議席数など、選挙後の政治状況に関する細かな内容が不明である事例が多いことである。イランやイスラエルといった事例では、それなりに報じられるものの、その他の事例ではまったく言及されないことが多い。第二に、中東の民主化が不十分との評価を受ける主因のひとつはその選挙制度の複雑さにあるが、その複雑さはメディアの一般的な報道ではカバーし得ない性質のものである。選挙制度が複雑化するのには、既存の政権が常に有利な態勢を

保つためにおこなう操作のためもあるが、民主化の経緯やさらに長いスパンでの歴史的な背景も背後には存在する。報道のレベルではそのような複雑な実態が解説されないのはやむをえないにしても、その情報が欠如したままでよいわけではない。第三に、獲得議席数で上位の政党名や、大統領や首相になるような政党幹部については報道されるものの、それらの政党自体に関する解説や分析はほとんどなされていない。つまり、選挙で勝利ないし敗北した政党が何かはわかるが、それがどのような政党であるかは十分語られることがない。

以上のような問題は中東地域に限らないが、中東諸国の選挙制度と政党に関しては、情報の欠如を専門的な研究を参照することで補おうとしても、実はそれを調べるための文献や資料すらほとんど存在しないのである。また、中東各国の民主化事例に関する専門家はいるものの、それらの専門家が、特定の国の選挙制度や政党を詳細に記述し、分析する機会が与えられることはほとんどない。それゆえ、本プロジェクトにおいては、中東各国の事例を丁寧に収集するとともに、至近の選挙の結果である現在の政治情勢に関する分析、評価を併せて研究することにした。そのような研究は、外務省や報道の関係者、中東のみならず広く国際政治に関わる研究者や学生、さらには報道により関心を喚起されつつも、その実態的な内容を知ることができない一般の人々にとって、きわめて有意義なものとなるであろう。ここに研究成果の一部を報告書として刊行する次第である。

なお、上に述べたような観点から、研究プロジェクトの活動は、次のようなものとした。

第一に、中東各国の選挙制度と政党に関して、基本情報を提示し、詳しい解説を行なうこと。そのために、対象国の選挙法及び政党法の規定を確認し、選挙制度の枠組みや細則、政党が認可される手続きや条件などを確認する。また、そこに見られる選挙制度の特徴、たとえば選挙区の設定や投票用紙の記入方法、比例代表制における当選最低得票比率といったものが、その国の政治情勢においていかなる意味を持つのかという考察も可能なかぎり含める。加えて、少なくとも議会において一定数以上の議席を有する主要政党につき、その歴史、綱領、政治思想及び政策概念、幹部や支持者の地域的・社会階層的傾向などを分析する。

第二に、対象国における至近の選挙およびその結果である現在の政治情勢に関して分析を行なうこと。選挙制度や政党が、実際の選挙においてどのように機能し、どのような結果をもたらしたか。また、それは民主化措置の前後において、どのような変化をその政治・社会に及ぼしているか。さらに、その選挙や政治情勢におけるイスラーム原理主義（イスラエルではユダヤ原理主義）に関わる政党や政治勢力の位置付けや、議会と政府（国王や

大統領の権限、議院内閣制の有無等)の関係なども、現在の政治的文脈を的確に描くなか
で明らかにするよう努力した。

対象国として、イラン、トルコ、イスラエル、アルジェリア、ヨルダン、イエメンを取
り上げたが、これらはいずれも近年民主化が進展し、選挙がおこなわれている国である。
これらの事例の分析を通して、中東諸国の政治について理解が少しでも深まることを願っ
てやまない。

プロジェクトの実施にあたっては、日本国際問題研究所、外務省の関係諸部局の皆様か
ら多大なるご支援を受けた。心より御礼を申し上げたい。

主査